

現在の本庁舎の場所をどう生かしたいですか？

5テーブルに分かれてメンバーを変えながらテーマについて対話を重ねた後、「現在の本庁舎の場所の生かし方」についてまとめていただきました。
(要約し、全テーブルの発表を整理して掲載しています)



住民目線で必須と思うこと

- 防災機能をしっかりとる (例：備蓄、トイレ、プライバシー司令塔)
- 新しい図書館はきれいで質の高いものに
- 民間が積極的に利用して財政負担を減らす工夫
- 支所として必要最低限の機能
- 避難場所としての機能
- これ以上は賑やかにしないでほしい
- 鎌倉らしさをアピール
- 鎌倉歴史文化センター、観光案内所を併設
- 作品の展示
- 世界遺産登録のための準備物を展示
- 映画館として使用可能
- 文化的施設 (例：映画館...昔は鎌倉市内にたくさんあった)
- 市議会の様子を見せる空間→市議会のやりとりも文化→市議会がないときは劇場として使用
- 長時間滞在できる図書館 (逗子市の図書館のような)

実現できたらワクワクすること

- 野外映画祭・音楽会・お茶会・オクトーバーフェス、盆踊りなどが気軽にできる場所
- 商業、産業を導入
- 鎌倉市内の企業と連携し、鎌倉ブランド、ニューブランド、ファッションの発信拠点に
- 図書館の自主スペースを拡充
- 特徴ある食堂を併設/トイレが利用可能
- みんなが気楽に立ち寄れるスペース/マルシェ、市場等ができるオープンスペース

建物について

- 建築条件で高さ10mまでのため、各階機能について整理
1階：民間に床を貸して運用
2階：公共施設 (例：支所、学習センター、育児サポート機能)
3階：図書館やホール

建物外について

- 建物が建っていない場所は観光客のための避難場所として機能→観光客が把握しやすいシンボリックな建物にすべき
- 駐車場に観光客が利用できるバス駐車空間やトイレ設置
- 施設を民間運営にしてみても、PPPやPFIや定期借地権等の手法を検討

その他

- 今現在の庁舎を「本庁舎」と呼ぶようにしてはどうか
- そもそも移転することに対して疑問もある

まとめ

住民目線と観光客目線の双方で、防災機能(特に災害時の観光客の避難場所)の重要性や鎌倉の歴史や文化に触れる機能の大切さについて、意見が出ていました。住民目線では、図書館・支所としての機能、映画館などの機能を求める意見も、複数のチームから発表されました。観光客目線では、鎌倉らしい

建物・デザインの大切さと観光案内所の充実に関する意見が複数のチームから発表されました。一方、これ以上賑やかにならなくてほしい、観光客を増やしたくないという意見もありました。さまざまなイベント(野外映画祭、盆踊り、マルシェ等)を行えるようなオープンスペースへの期待について、「実現できたらワクワクすること」として複数のチームから発表されました。

鎌倉市公共施設再編計画NEWS

第3回 鎌倉市本庁舎等整備市民対話を開催しました。

鎌倉市では、2018年度末までを目標に、新たな「本庁舎等整備基本構想」の策定に向けた取組を進めています。この基本構想に市民目線や市民感覚を取り入れていくため、取組状況を市民の皆さんに広く共有するとともに、新たな本庁舎のあり方・理念について多様な意見を伺うことを目的とした市民対話を9月8日(土)に開催しました。市民対話のメンバーは、無作為抽出により案内状を送付した市民の中で参加を希望された30名です。当日は参加された市民12名(加えて傍聴者3名)で、4つの「本庁舎のありたい姿」を描いた前回の市民対話の結果をもとに、「ありたい姿の実現のために本庁舎に導入したい機能」について話し合っていました。最後に対話で示された様々な意見について、重要と思う意見に1人5票まで投票していただきました。投じられた55票(投票されなかった方1名)のうち、3分の1が



「強く壊れない、防災時も頼れる本庁舎」関連の意見に集まり、市民の皆さんの防災への関心の高さが改めて確認されました。また、前回の市民対話で描いた4つの方向性に加えて、「時代の変化に合わせ、本庁舎の姿と機能も変わる」「鎌倉らしさを生かす」「人と人が対面で接する温かさ」などの新たな視点にも投票が集まっていました。

詳しくは裏面をご覧ください

第2回鎌倉市本庁舎等整備委員会を開催しました。

本庁舎等の整備に関する事項を調査・審議することを目的として学識経験者3名、知識経験者1名、公共的団体からの推薦者5名の合計9名(10月17日より学識経験者1名追加)で構成する第2回整備委員会を9月12日(水)に開催しました。委員会では、市民対話の開催状況、第43回市政e-モニターアンケート集計速報、深沢地域整備事業

の修正土地利用計画案などについて報告した後、市民意見を踏まえた規模のコンパクト化(庁舎面積-5,000㎡)や基本理念「コンパクトなスマート本庁舎」等について、議論していただきました。
なお、本委員会は傍聴が可能です。会議資料等も市ホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。

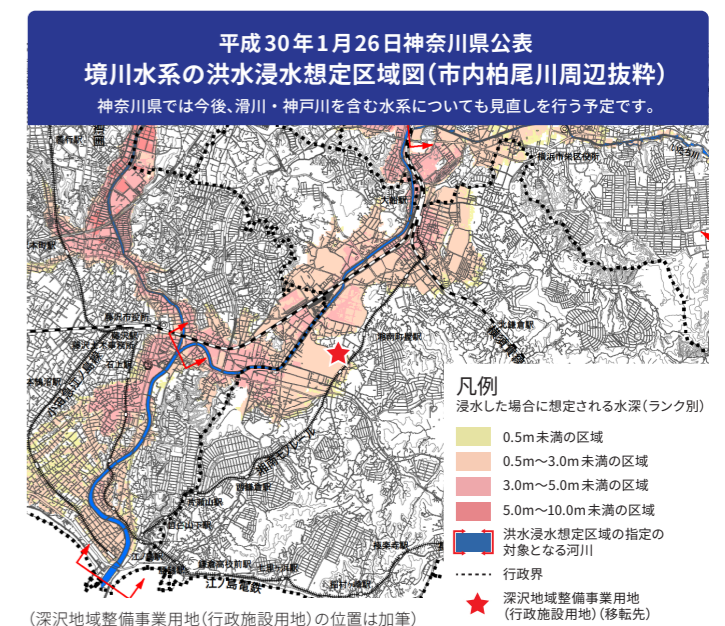


洪水浸水想定区域及び特定都市河川について

広報かまくら10月1日号で掲載しましたが、2018年1月の神奈川県告示により境川水系の洪水浸水想定区域図が公表されました。これは、平成27年の水防法改正に伴い、避難体制等の充実・強化を図るため「想定し得る最大規模の降雨」(632mm/24h)による洪水浸水想定区域を表示したもので、深沢地域整備事業用地(行政施設用地)では0~3.0m未満(造成後0~1.5m程度)の浸水が想定されています。

また、境川水系柏尾川及びその流域が、特定都市河川及び特定都市河川流域(特定都市河川浸水被害対策法)に指定されており、現在の安全性を最低限維持、また、少しずつでも高めるための規制等(1,000㎡以上の雨水浸透阻害行為(土地からの流出雨水を増加させるおそれのある行為)の許可等)が設けられています。

本庁舎については、今後起こり得る自然災害に対応できるように整備していきます。



取組内容について職員が説明に伺う出前講座も受け承ります。

発行者：鎌倉市 行政経営部 公的不動産活用課 公的不動産活用担当
電話：0467-23-3000 (内線 2565)
URL：http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/facility.html



第3回
市民対話で
話し合った

ありたい姿の実現のために 本庁舎に導入したい機能

意見を出し合い、最後に重要と思う意見に1人5票で投票しました
以下の意見は、本庁舎等整備委員会へ報告し、基本構想策定の素材として活用しています。

A ネットワーク型 ミニマム・コンパクトな本庁舎

計
9票

- 機能の分散化は災害時にも有効 **5票**
- 防災時、鎌倉は観光客の受入れ、深沢は司令拠点 **2票**
- 先行事例があるはず
(例：アメリカ・エストニアの都市) **1票**
- 機能を分散化。鎌倉にも深沢にもある **1票**
- 腰越にも拠点

B 稼げる次世代の本庁舎

計
7票

- 観光資源になる、人を呼べる本庁舎 **3票**
- 仕事する・起業する人への開かれた場としての機能
(とくに若い世代やIT系企業を呼ぶ) **2票**
- いい椅子と机を備えた図書館機能 **1票**
- 例えば、鎌倉の文化・歴史を展示 **1票**
- テレワーク拠点

C 強くて壊れない、 防災時も頼れる本庁舎

計
18票

- 電源維持(自家発電を含む)は必須 **5票**
- 外は堅固、中のレイアウトは柔軟 **5票**
- 現場の一次情報把握と市民への
伝達・共有機能が大事 **4票**
- 普段はあまり使われてない余白が、
緊急時のスペースになることも大切 **3票**
- いざというときは、アナログでの情報連絡
(例：拡声器)も役に立つ **1票**
- そもそも、都市機能の設計が大事。災害は鎌倉市単独で
起きるわけではなく、他市との連携が大事。
市庁舎だけでは解決できない
- 携帯の充電サービス
- 災害時は海側からの支援が有効。川も使える
- 嵩上げて建てることへの不安

D 簡素化・効率化・ ミニマム本庁舎

計
5票

- 市職員の在宅勤務も普通になる **2票**
- アナログにしか対応できない人もいるから、
対面で話せる機能はとても大事 **1票**
- ITの活用とアナログとは、バランスが大事 **1票**
- 今は、無駄な空間も多い。
例えば、議場の使用率はとても低い **1票**
- AIやRPAで市の業務の効率化。
LINEとの連携もその方向では。
- そうすると、立派な建物も無駄になりかねない
- 快適だが誘惑は少ない場所

共通又はその他

世の中は変わり続け、本庁舎に求めるものも変わり続ける

- 未来の「市庁舎」の姿や機能は現在と全然違うはず **3票**
- 30～50年後は予測できない。
人口も減少するし、キャッシュレス化も進む **1票**
- エストニアの役所は建物は古いが、完全IT化され人は非常に
少なく、スペースはさほどいらなくなっている
- 「次世代」の10代の多くは、(鎌倉を好きでも)数年経つと鎌倉
を離れる
- 市庁舎は若者が集まる場所ではない

鎌倉らしさを残し、生かす

- 人同士、挨拶する、関係性が近い **3票**
- 地理的特殊性：山と海に囲まれ入りづらい地形を生かす
- 自然が近い

対話について

- 市民ができることはどこまでかを考える **2票**
- こうした対話の機会自体は非常に大切 **1票**
- 市民対話の回数、人数とも不十分ではないか

「温かさ」は求められ続ける

- 世の中が技術で変わり続ける一方、ついていくのも大変。
これらを(特に)高齢者に丁寧に教える機能は大切 **3票**

A～Dは前回の市民対話で描かれた「本庁舎のありたい姿」です

第4回

鎌倉市本庁舎等整備市民対話 「拡張ワークショップ」を 開催しました。

10月8日(月・祝)には第4回の対話を「拡張ワークショップ」として2部構成で開催しました。より多くの市民の方々からご意見を集めるため、公募による参加者にもお越しいただき、第1部には39名(*1)、第2部には20名(*2)の参加がありました。

第1部

新しい本庁舎に何を求めたいですか？ 付箋101枚のアイデア

グループごとに対話を重ねた後に、参加者一人一人がアイデアを付箋に書き出し、これまでの市民対話の結果から抽出した次の六つの区分とそれ以外に分けて整理しました。
(要約し、類似のアイデアをまとめて掲載しています)



堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎



- 災害対策本部(司令塔機能等) (12)
- 受援等の空間(駐車場やヘリポート等) (6)
- 敷地・建物の安全性(減災拠点調整池等) (3)
- 防災教育(2)
- その他(普段～災害時のトイレの充実、防災拠点や衛生設備等) (4)

人や民間資金を呼び込む本庁舎



- オフィス機能(個人事業主・中小企業等の支援等) (6)
- 住宅利用への懸念(1)
- 店舗機能(食堂やコンビニ等) (1)
- 来訪者対応(観光資源になるデザインと機能) (1)
- その他(稼げるアイデアを出し合える機会提供や広報機能等) (3)

市民に寄り添った対応ができる本庁舎



- 交通アクセス(バスや自転車道路等) (5)
- 交流機能(各世代や世代間の交流等) (3)
- 子どもの居場所(3)
- 窓口の利便性(夜間や土日利用等) (2)
- 店舗機能(安くてうまい食堂等) (1)
- その他(シルバーエイジが働ける保育園や育児支援施設等) (3)

過去の市民対話の結果から 抽出した区分以外



- 水害対策(親水公園等) (4)
- その他の機能
(資料コーナー拡大室、市民が気楽に市長と話し合える場所等) (5)

最小限の機能を揃えた コンパクトで効率的な本庁舎



- コンパクト化(用途転換に柔軟等) (4)
- 機能面(事業者が利用可能な広報システムや医療連携等) (3)
- IT化など(3)
- 市民利用(会議室や起業家専用空間等) (3)
- コスト面(収益が出る、管理費・維持費が少ない等) (2)
- その他(市民自身何を努力したほうが良いのかも考えたい) (1)

鎌倉の自然や歴史を感じ、 市民のつながりを生かせる本庁舎



- 歴史や文化を知る機会(4)
- 鎌倉らしさ(3)
- その他(「ごみ分別」を誇りにしても良い) (1)

まとめ

101枚のアイデアのうち、4分の1以上が「堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎」関連の意見に集まりました。災害対策本部や受援関連の意見には、「ヘリポートの設置」や「支援物資の車両スペースの確保」など具体的なアイデアも多く、市民の皆さんの防災への関心の高さを改めて確認できました。「市民に寄り添った対応のできる本庁舎」にも17枚の付箋が集まり、とくに交通アクセスの充実、交流機能や子どもの居場所をつくることに関する意見が集まりました。また、「最小限の機能を揃えたコンパクトで効率的な本庁舎」にも16枚の付箋が集まり、本庁舎がコンパクトであること、また、多様な用途に柔軟に対応できる本庁舎であってほしいという声も改めて確認できました。



*1 うち12名へは別途詳細説明会、2名は開始直後に参加辞退で、計14名が対話不参加
*2 うち1名は退室され、対話不参加